



川床中学校でマナー教育 思いやりを伝える



6月3日、川床中学校 秦一成校長・48人で人財育成講師の白谷美鈴さんを講師に招いて、全校生徒を対象に、中学生からはじめめるマナー教育「思いやりを『かたち』にして伝える力を育む」が開催されました。日常生活の中での気付きや振る舞いを見直し「心を届ける力」を育てることを目的として、生徒らは、正しい制服の着用や印象を良くする態度、笑顔、あいさつなどを学びました。小城凛花さん（1年）は「正しいあいさつとお辞儀を学んだ。これを忘れずに生かしていきたい」と振り返りました。

鷹巣小学校「おやどり読書会」

この経験を次の世代に



6月14日、鷹巣小学校（西留敦朗校長・198人）でボランティアサークル「おやどり読書会（下平忍代表・6人）」が全校児童を対象に絵本の読み聞かせを行いました。創設して11年目になる同会は、児童らの読解力や感情理解などの向上を目的として、児童らに読み手が選んだ絵本を読み聞かせています。下平さんは「創設時に読み聞かせをした子どもたちが、親になる世代。自身の子どもたちにもこの経験を思い出して読み聞かせしてほしい」と話しました。

防災拠点の設置と災害時相互支援体制構築 「防災拠点」を全国に



6月16日、長島町平尾防災倉庫（平尾ふれあいセンター）で（公財）B&G財団と町で締結した「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」の協定書調印式と配備機材お披露目式が行われました。

同財団は、自治体と連携し、災害支援に即時対応できる機材と人材を備えた「防災拠点」を整備。油圧ショベルと軽トラダンプ、救助艇などの機材を配備し、どの拠点でも同じ機材と手法で災害支援活動ができる体制を整えるため、機材の操作方法と災害対応の研修を行っています。

拠点に備えられた段ボールベッドや災害用トイレ、ドローンなどを使用して、地域住民の防災、避難所運営訓練を実施し、災害時だけでなく平時も活用できるように整備しています。

菅原悟志理事長（写真右から2人目）は「災害が多い日本に同拠点を広めていきたい、長島町は県内6カ所目。災害はいつ起こるか分からないので、機材は研修も含めて平時から活用してほしい」とあいさつ。川添健町長は「機材だけで無く、研修まで取り入れていただきありがたい。財団の気持ちを受け止め、機材や施設の活用を進めていきたい」とお礼の言葉を述べました。